

# NO NUKES 静岡Press

持続可能な社会を目指して

## ゴマカシて 5号機運転再開へ

昨年12月3日、国・保安院は4号機でのプルサーマル発電は認めなかったものの、5号機運転再開については「妥当」として中部電力に対して不当にもお墨付きを与えた。これを受けて、今年1月から、中部電力は静岡県や地元での説明会を形式的に開催し、地元了解を得る行動に入っていた。

これに対し、浜ネットは、他の団体とも協力し、県や、地元への5号機運転再開の反対の働きかけ、中電に対しては抗議また市民に対し浜岡原発の危険性や、これまでの経過などを訴える街頭宣伝行動そしてこれらの行動をマスコミを通じての訴えを図るため記者会見を頻繁に行ってきた。以下、時系列的にこの間の行動を報告する。

- 1月5日：原発震災を防ぐ全国署名連絡会（浜ネットも参加する団体）、静岡県知事に申入れ  
「浜岡原発5号機の起動を認めないで下さい」  
「3・4・5号機の営業自粛を事業者に求めてください」

■1月7日：保安院と中部電力が、静岡県防災・原子力会議 第1回原子力分科会で

(1)駿河湾の地震を踏まえた浜岡原子力発電所5号機の耐震安全性の影響確認について

(2)浜岡原子力発電所4号機におけるプルサーマル計画の延期について

上の2点を議題に報告説明を行った。分科会の結論は「妥当」。傍聴は許したが、質問や意見はシャットアウト、完全なる出来レース。

原子力分科会 構成員

氏名	専門	所属・役職など
山本 一良 〔分科会会長〕	原子力工学	名古屋大学理事・副総長
明石 真言	放射線被ばく医療	(独)放射線医学総合研究所緊急被ばく医療研究センター長
大竹 政和	地震学	東北大学名誉教授 前地震予知連絡会会長
興 直孝	原子力行政	静岡文化芸術大学理事
久保 哲夫	耐震建築	東京大学大学院工学系研究科建築学専攻教授
小佐古 敏荘	放射線安全、遮蔽、計測	東京大学大学院工学系研究科原子力専攻教授

■1月8日：浜ネットは、静岡市青葉公園で街頭シール投票を実施。2時間で、603人が投票に参加。選択肢は次の3つ。

- |   |              |
|---|--------------|
| (1) 東海地震が過ぎ去るまで停止を                      | 243 (40.3 %) |
| (2) バックチェックの結果を待つべき<br>(国の正式な耐震安全性評価結果) | 333 (55.2%)  |
| (3) 運転再開して良い                            | 27 ( 4.5%)   |

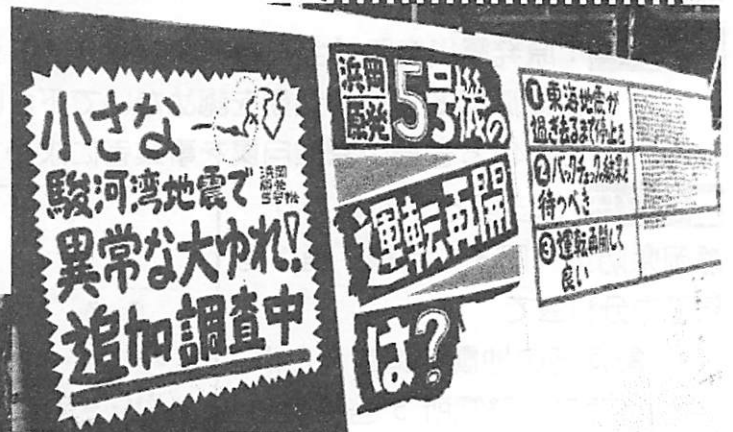


浜ネットの会員の堀さんが4月の地方統一選挙に、三島市議会選挙に立候補します。2期目です。ご支援よろしくお願いします。



堀孝信さん

結果は、国や中電を支持する者は、僅かに 4.5 % 東海地震がいかにも市民を不安に陥れているか明らかになった。



## ■1月13日：浜ネットは県へ申し入れ

かねてより、再三申し入れている「公開討論会」の実施を、この際「5号機運転再開」と「プルサーマル」問題で、全県民を対象に行うべきと申し入れた。

## ■1月15日：地元市民説明会(周辺四市—御前崎市、菊川市、掛川市、牧之原市の市民を対象)

中電と保安院が開催。ここでも周辺四市に市民以外は、質問・意見を許さず。そのあと引き続き開かれた「浜岡原子力発電所安全等対策協議会」では、「運転再開について差し支えなし」との結論を出しています。こちらも予定されたものでした。浜ネットは会場(御前崎市新野公民館)前で宣伝カーによる訴えとチラシ配布を行いました。大部分の説明会参加者がチラシを受け取りました。



◀新野公民館前での宣伝行動 ▲



## ■1月24日：浜ネット、保安院と静岡県に対し抗議と緊急申し入れ。

貴原子力安全・保安院は、切迫している東海地掛らの浜岡原発の安全を願う私たち市民の度重なる申し入れを無視し、一昨年8月11日の駿河湾地震で大きな被害を受けた中部電力浜岡原発5号機の無責任な運転再開を昨年12月に容認してしまいました。年が明けるや待ちかねるように中部電力とコンビを組んで、静岡県と、御前崎市、牧之原市、菊川市、掛川市の極めて限られたメンバーを対象にした説明会を開催しました。

一般県民の傍聴は人数をごく少数に限定し、質問も、意見発表も許可せず、写真撮影も録音も許さないという一方的で閉鎖的な説明会でした。

静岡県によれば5号機運転再開時には、「県民にその理由を納得できるよう説明できる報告会を開催することを保安院も了承している」と私たちの申し入れに約束し、県議会本会議の議員質問にも同様の答弁をしています。保安院が豹変したのか、静岡県が出まかせの虚言で市民や県議をたぶらかしたのか、はっきりさせてください(添付の静岡県へ申し入れ書を参照のこ

と)。

そして次の事項について、私たち市民の理解できる言葉で回答してください。質問の内容、その理由については昨年来の保安院への市民団体の申し入れ書、質問書に詳しく述べておりますので重複を避け端的にお聞きします。

1. 静岡県が約束した、県民のだれもが参加でき、質問、意見の発表のできる国主催の説明会を開催しないのはなぜか。
2. 貴院は、中部電力が2010年度中の運転を公言していた浜岡原発4号機でのプルサーマルの運転開始を「耐震安全性確認(バックチェック)がまだできる段階ではない」との理由で認めない決定をしました。  
これはまったく当然のことと理解できますが、それなら、4号機地盤よりはるかに地盤の劣悪なことが駿河湾地震で証明され、しかも4号機と同じくバックチェック未了の5号機は東海地震でも安全だと何故保障できるのか。希望する県民の参加、質問、意見発表が保障された説明会を開き、一般県民、市民が納得できる説明を願いたい。
3. 東海地震の200分1の規模とされる駿河湾地震で、東海地震でのS1許容値を上回る振動に見舞われた5号機が、東海地震で安全であると証明できるはずがないとする学者、専門家との公開討論会を至急開催すること。

■1月24日：原発震災を防ぐ全国署名連絡会も、「浜岡5号機起動への知事了解に対する声明」を発表

■1月27日：「原発震災の危険を伴う5号機運転再開に抗議する」として現地浜岡原発にて抗議を行った。この日の対応は誠にひどかった。会議室にも通さず原発見学者の休憩所で、しかも最初は立ったまま「抗議文」を受け取ろうとしたが、ようやく座らせ下記の抗議文を手交した。

# 40年間にわたって嘘と ごまかしによって市民を欺いた中電

原発震災の危険を伴う5号機運転再開に抗議する

2011年1月27日

中部電力株式会社

代表取締役社長 水野明久様

浜岡原発を考える静岡ネットワーク  
浜岡原発を考える会  
地震で原発だいじょうぶ会?

1月25日、中部電力は原発震災の危険を無視して、国の耐震安全性評価もないまま5号機の再起動を強行してしまいました。県民、住民(以下市民)の生命を担保にした原子力発電にとって、絶対的な安全の保障と、無条件の情報公開を前提にした市民の理解と納得が運転の最低の条件であります。そのいずれもないがしろにしたこのたびの行為は、暴挙としか云いようがありません。

さらに中部電力は1号機着工以来40年間にわたって嘘とごまかしによって市民を欺き続け

## 浜岡5号機運転再開 3市民団体が抗議文



抗議文を読み上げる市民団体の代表者ら＝御前崎市の中電浜岡原発で

てきました。私たちは怒りを持って中部電力に抗議し、以下の欺瞞行為について責任ある回答を求めます。

1、貴社は、1号機から5号機まで建設の都度、「硬い硬い地層の岩盤の上に建設

中部電力が長期停止していた浜岡原発5号機（御前崎市）を二十五日に運転再開したことに對し、同原発に對する市民グループ三団体は二十七日、同原発の運転中止などを求める抗議文を中電に提出した。

「浜岡原発を考慮する静岡ネットワーク」

「浜岡原発を考慮する静岡ネットワーク」

今回の運転再開は暴

▲ 11.1.28 中日新聞

するので、東海地震にも絶対安全だ」と説明し続けてきたが、駿河湾地震で5号機が他機の2.4倍という異常な振動に襲われ30箇所を越える修理を必要とした原因について「5号機の地下に低速度層が存在していたため」と、地下再調査の結果を説明していますが、これは、「硬い岩盤」ではなく、泥と砂の「軟らかい地層」が敷地直下に広く存在しているという事実の追認にほかなりません。

このことは1・2号機建設時、静岡大学の地質学教授や、著名な地質学者が「原発建設敷地一帯は泥岩、砂岩が主体の極めて軟弱な安定しない地層であり、原発敷地としては極めて危険ではないか」と公開質問状を發し、貴社が黙殺した事実が思い起こされます。今、貴社が説明している「低速度層」なる地質学上の用語はなく、いまさら「軟らかい地層があった」とはいい難い貴社の苦肉の造語と聞きますが、恥の上塗りのような誤魔化しはやめ、長年、住民を欺いてきたことを謝罪すべきです。その意思はありますか。

2 貴社は2009年、「防震対策には数千億円かかる」と1・2号機の廃炉を決定しました。しかしその数ヶ月前までは「1・2号機は3・4・5号機と同じ程度の耐震力があり、2010年度中の運転再開を準備中」と地元自治体や市民に説明してきました。危険な1・2号機の廃炉には大賛成ですが、ここで大きな疑問が生じます。1・2号機と「同程度」とされた3・4・5号機の耐震力が、数千億円はおろか、1機数十億円程度の防災工事でたちまち東海地震にも余裕を持って対応できる耐震強度を持つことになってしまったのでしょうか。この魔法の計算手法を市民に理解できるように説明してほしいものです。なお600ガルの耐震設計で製造された3・4・5号機が1400ガル余の強震動にも余裕があることになった計算の合理性も納得できるよう説明を求めます。

3 貴社が昨年秋から数回にわたって原子力安全・保安院に提出した、5号機が東海地震にも安全だという報告書の中で、一般市民の素朴な疑問のいくつかについて明快な説明を求めます。その一つが、東海地震の揺れの時間を数秒として計算していますが、数分に及ぶというM8クラスの東海地震での予想振動時間を計算式に入力しない理由は何故か。また、横揺れの二分の一以上といわれる縦揺れをわずか八分の一としたデータを採用しているのはなぜか。さらに地震動評価にあたっては最も余裕がないとされる再循環ポンプモーターを評価部位から

はずしているのはなぜか。

4. 素朴ではあるが、最も核心を突く一般県民、市民の疑問は、大きな地盤隆起を伴う御前崎台地を形成した超巨大地震の発生周期も危惧されているこの時期に、そのファクターを全く無視しているのはなぜか、震度7クラスの地震、余震の連発、M7クラスのスラブ内地震の同時多発、10メートルをはるかに超える巨大津波の襲来の可能性等に答えていないのは何故か。これらに答え得ない安全報告には市民を安心させる説得力は何もありません。

5. 最後に申し入れます。先日、またもや国や県から指摘、指導を受けたように貴社の法令無視、管理規則違反或いは事故隠し、データ改ざんは常習化しており、人間の生命に直結した原子力発電を運営管理する資格と責任能力に欠けるものと思えます。この際、東海地震が過ぎ去るまで浜岡原発運転のすべてを自粛して、安全を第一に考える道義性をもつ組織に再生することを強く望みます。

■1月28日：反原発自治体議員連盟(仮称)の準備会発足

# 地震国日本に原発は危険！いらない！

## 反原発・自治体議員連盟の結成準備進む

もんじゅ、六ヶ所の破綻で、政府、原発企業、電力会社一体の核燃サイクル構想は完全に破産していますが、諦めのつかない彼等は、活動期に入った地震列島日本での原発運転強行、ブルサーマル実施、日本と同じ大地震地帯アジアと中東への原発プラント輸出等で延命を図ろうとしています。しかも国民の期待を裏切った民主党菅政府は原発企業の番頭を務めるまでに成り下がりました。今、国会では原発推進政策の転換を迫ってきた民主党の良識派国会議員たちは完全に押さえこまれて、国政の場では原発推進政策見直しの声も上げられない状況に落ち入っています。

こんな時、首都圏の自治体議員たちから「政治の場は国政だけではない、市民の世論は自治体からも発信できるし、原発を止めさせる力となれるのだ」との声が挙がり、広がり、東京、神奈川、千葉、茨城など首都圏の自治体議員と、原発立地県新潟、静岡、福島の自治体議員、賛同する市民を含め61人が参加し、去る1月28日、東京都議会会議室において「反原発自治体議員連盟」(仮称)の準備会を開催しました。準備会は「危険な原発情報の共有。原発施設下での市民と自治体の反対運動を学ぶ。それぞれの地域、それぞれの自治体で日本社会からの原発廃止の活動を続ける」ことで一致し、呼びかけを広げて5月に結成総会、7月に浜岡でシンポジウムを開くことを申し合わせました。

会議は準備会責任者に福士敬子東京都議を選び、富士市の共同代表となった鈴木敏和市議と他10名を準備委員とし、発足までの活動を委任しました。準備会の事務局は市民の協力をいただき、当面たんぼぼ舎にお願いすることになりました。ちなみに静岡県からの参加表明は現在佐野けい子、松谷清静岡市議、堀孝信三島市議、大石和央牧之原市議、小沢明美浜松市議、市民から白鳥良香、鈴木卓馬など約10名です。詳細は次号でお知らせします。

# 最近の中電・浜岡原発トラブル

年	月	日	号機	内 容
2010	12	9	3	原子炉圧力容器内にある蒸気乾燥器のステンレス製土台の溶接部付近で、長さ約15ミリのひび割れが見つかる。他社の原発で2009年に同様のひび割れが確認され、自主的に調べていた。今後原因を調べる。
		24	4	11月3日に原子炉につながる冷却材浄化系配管の弁内部で確認したナット2個は、原子炉圧力容器の上ぶたを脱着するときに使う装置から外れたと分った。11月16日に主復水器で回収したナット2個は、前回の定期点検中に混入した可能性があるとの推定。
		24	3・4	火力発電所で、高圧ガス保安法に基づく県への工事許可申請や届出漏れが計35件発覚した問題に関連して、浜岡原発に県が立ち入り検査に入った。 (12/27 中電の調査で、浜岡原発にも7件の許可申請や届出漏れがあったことが分り、県へ調査結果を報告した。3号機の水素ガス安全弁と窒素ガス圧力調整弁、4号機の水素ガス圧力調整弁で1997年以降、弁の取り換え工事に必要な届出・許可申請を行っていなかったとして、県に陳謝した。小林県危機管理監は「社員教育の徹底だけでなく、会社の態勢に問題がある」と指摘。) (1/7 弁などの同一品への取換えは届出の対象外としていたほか、部署や担当者ごとで誤った判断基準があったと県へ説明。中電発電本部原子力部の石原部長が謝罪した。) (1/21 県は法令順守と再発防止に努めるよう文書で指示した。) (1/31 新たに22件の申請、届出漏れがあったと発表。問題があったのは、長野、岐阜、愛知の営業所や取引先の建物の工事で、合計83件となった。)
2011	1	5	4	定期点検中、原子炉圧力容器内の蒸気乾燥器に3ヶ所のひび割れが見つかる。必要な肉厚を確保できるとして、継続使用の方針。蒸気乾燥器はステンレス製で、ひび割れは土台部分と燃料交換時に使用するつり棒の溶接部付近にあった。最大の長さは約21ミリ、深さは約15ミリ。応力腐食割れとみられる。昨年12月に3号機でひび割れが見つかったのを受け、調べていた。
		19	3	定期点検中、原子炉建屋4階でビニールシートが焼けたと消防署に通報。原子炉圧力容器上ぶたの金属保温材の支持部材溶接時の金属くずが、敷いていたビニールシートに落下して0.3平方メートル焼け、作業員が消した。 (2/3 県や地元市などに火災原因と再発防止策をまとめ、報告した。溶断作業を行う足場下の空間に可燃性のシートや保温材などを仮置きしていた。足元に耐火シートやブリキ板を敷いていたが、耐火シートには穴が開き、ブリキ板にはすき間があった。再発防止のため、すき間のないことを確認すること、防火の指導や監視を行う専任の監視員を設置するなどの対策をまとめた。)

# 第15回総会開催へのご案内

昨年9月に第14回総会を開催し、半年しか経っていませんが、すでにご案内したとおり、会計年度の変更(4月1日～3月31日)をしたために、これからは4月に総会を開くこととなりますのでご了解ください。

総会終了後記念講演を行います

## 講師は西尾漠さん

まだ講演内容が定まっていますが

●核燃サイクルの破綻(?)

●エネルギー政策の転換

などで西尾さんと相談したいと考えています。

ところ：静岡労政会館5F

とき：4月16日(土) 13時30分～

参加資料代：500円



西尾漠さん

### 大看板設置にカンパを!

目標 25万円

国道150号線沿いに「反原発」の大看板を立てました。大きさは畳2畳分。

看板立てる良い場所が見つければ数を増やしていく計画です。心苦しいお願いですが、カンパをよろしく。(赤い振込用紙を同封さしてもらいました) ▶



### 10年度会費納入のお願い

今年度は3月31日までですまだ会費未納の方、青色の振込用紙を同封させて頂きました。よろしくお願ひします。

### いまの浜岡 2011年2月23日現在

号機	定格出力(万) <sup>キロワット</sup>	運転状況
1	54	閉鎖
2	84	閉鎖
3	110	定検で停機
4	113.7	調整運転中
5	138	調整運転中

### 浜岡原発を考える

#### 静岡ネットワーク

〒420-0068 静岡市葵区田町3-5-6

tel 054-271-7302 fax 054-271-7339

郵便振込 00840-0-119312

口座名「浜岡原発を考える静岡ネットワーク」